

## 令和5年度総合文化センター自主事業実績一覧

### 1 鑑賞系事業(主催事業)

事業名	開催月日	会場	事業内容	入場者数(人)
1 【オーケストラ】 iichikoグランシアタ・ジュニアオーケストラ 第15回定期演奏会	3月24日 (日)	アクロス福岡 シンフォニー ホール	指揮にNHK交響楽団正指揮者の下野竜也氏を招聘し、団員47名・卒団生13名・芸短生11名、その他賛助など14名、計85名で演奏。プログラムは、モーツァルトのディヴェルティメントK.138、グリークの『ペールギュント』、チャイコフスキーの交響曲第5番。またアンコールに応じてチャイコフスキーの花のワルツを演奏した。ジュニアオーケストラの素晴らしい演奏に大きな拍手がおくられた。特にチャイコフスキーの交響曲でのホルンの独奏を讃える声があがった。	491

### 2 人材育成事業(主催事業)

事業名	開催月日	会場	事業内容	参加者(人)
1 ジュニアオーケストラ育成事業 (ジュニアオーケストラ・ミュージックキャンプ)	通年 31回	iichiko SpaceBe 大分県立芸術 文化短期大学 大分県庁 正庁ホール	当センターのホール付属で県内唯一の子ども達によるジュニアオーケストラの運営を行った。練習は原則毎月第2、第4日曜日で場所はiichiko SpaceBeで行った。芸術監督は川瀬麻由美氏、音楽監督は高田喜夫氏。工事により、練習室が使用できない期間もあり、代替施設として県庁や大学で練習するなど、制約も多かったが、活動を継続した。地元の大学講師のほか、下野竜也氏からの指導により、技能だけでなく音楽に臨む姿勢も高まった。	団員 49 アカデミー 14
	9月16-18日 (土-月/祝)	熊本県立劇場	大分、福岡、熊本、長崎の4県のジュニアオーケストラが集い、合同合宿を実施。宿泊を伴う他県の楽団との交流は6年振りであり、団員同士の結束が深まっただけでなく、最終日に総勢127人の仲間と演奏することで、多くの刺激が得られた。令和6年度には、この交流事業を発展させ、アクロス福岡において合同でフェスティバルを開催する。	
2 ボランティアスタッフ養成事業 (他施設見学研修、ブラッシュアップ研修)	1月23日 (火)	博多座	博多座において、自らがお客様となり、他施設の応接・対応等を視察することで、お客様の立場で考える能力を養った。	23
	2月25日 (日)	中会議室	角屋里子氏によるフォローアップ研修。令和6年度のリニューアルオープンに向け、コロナ対応緩和や高齢者・小学生に対応する研修とした。	32

### 3 普及啓発事業(主催事業)

事業名	開催月日	会場	事業内容	入場者、参加者(人)
1 ジュニアオーケストラ・ミニフェスティバル	2月11日 (日/祝)	iichiko アトリウムプラザ ほか	楽器体験やオーケストラ・コンサートを体験するフェスティバルは令和3年度から3回目。ホールが天井改修中であるためコンサートは1階アトリウムプラザで実施。また地下1階のリハーサル室等練習室は12月から休止となったため、県民ギャラリー・映像小ホール、4階会議室でレッスンや楽器体験を行った。経験者コースはパートごとに講師からレッスンを受けた後、団員と一緒にコンサートに臨み、グリーク『ペールギュント』より第1組曲第4曲『山の魔王の宮殿にて』(抜粋版)を演奏した。初心者コースはコンサートを鑑賞した後、弦楽器・打楽器を体験した。	初心者コース 27 経験者コース 18
2 歌劇『竹取物語』レクチャーコンサート 第1回講座	3月5日 (火)	大分県立美術館 1階 アトリウム	令和6年12月開催の歌劇『竹取物語』の演目や見どころを解説するレクチャーコンサートを入場無料で開催。講師は演出家の中村敬一氏。出演はおじいさん役のバリトン迎肇聡氏、おばあさん役のメソソプラノ森季子氏、ピアノ伴奏・藤澤菜那氏。オペラ冒頭の竹林でかぐや姫を見つけるシーンを中心に解説いただいた。	89
3 歌劇『竹取物語』レクチャーコンサート 第2回講座	3月10日 (日)	コンパルホール 3階 多目的ホール	令和6年12月開催の歌劇『竹取物語』の演目や見どころを解説するレクチャーコンサートの2回目。有料公演として開催。講師は演出家の中村敬一氏。出演は伴御行役のバリトン晴雅彦氏とピアノ伴奏・藤澤菜那氏。晴氏が伴御行以外にも、かぐや姫役や帝役も1人で演じ、主要な場面の解説いただくことで、12月の本公演への期待が高まった。	83
4 演奏家派遣強化事業	通年 46回	県内小中学校 公民館 など	県内の小中学校・公民館等に、オーディションを通過し、研修を終えた大分県にゆかりのある若手演奏家を派遣し、生のクラシック音楽とその魅力を届けた(ピアノ、声楽、弦楽器、管楽器、打楽器、アンサンブル)。例年の倍の回数(46回)を目標とし、活動の充実を図るとともに、新たなファン層の拡大を進めた。	2,799